



会派清新
柴田 文男

コロナ支援策の拡大について

質問 コロナ禍において市民の生命と安全を支える医療や介護・養護など、各業務従事者に対するさまざまな市の支援策の実施について敬意を表したい。しかし、この秋以降、予断を許さない情勢の中で、例えば、除排雪やごみ収集などの業務は一日たりとも停滞を許されない極めて重要な公共サービス分野である。こうしたサービス分野を支える事業者、従業者に対しても支援を行う必要があると思うが、見解を伺う。

答弁 医療従事者や保育士などに対する支援策は、地方創生臨時交付金の二次申請分として対応を図ったところです。ご質問のとおり、業務の停滞が許されない公共サービスに携わる方々に対しても、不測の事態に備え万全な体制をとれるよう感染などによる業務停滞の事態に備えた相互協力体制の構築をお願いしているところですが、

今後の感染状況などの推移を見極めながら、支援の必要性について十分な検討をしていきたいと考えています。

北電砂川火力発電所の廃止計画について

質問 環境省は2030年までに国内で稼働中の石炭火力発電所などについて、そのほとんどを廃止するとして旧式火力発電所の廃止を決めたようだ。中空知にとって石炭関連産業は、この地域の歴史そのものであり、他に変えることはできない。滝川市も1989年の滝川火力発電所の廃止を経験して、関連産業の壊滅を目にしていたところである。中空知の中核都市である本市の歴史を鑑みて、この問題にしっかりとリーダーシップを持って取り組む必要があると考えるが、市長の考えを伺う。

答弁 発電所の稼働に伴う採炭は、中空知地域における主要産業の一つであると認識しています。しっかりと守ることを前提に関係自治体と連携を取り、定住自立圏の中心市として情報共有しながら国の動向を注視していきます。



新政会
安楽 良幸

合同墓の設置について

質問 お墓の継承問題や経済的な理由などにより、市民のお墓に対するニーズが多様化し、設置の必要性は年々増している。また、近年は周辺の自治体でも設置が進んでおり、本市においても早い時期に設置すべきと考えるが、見解を伺う。

答弁 本市は現在、財政健全化の中ではありますが、合同墓の必要性は認識しており、今後は所管課と事業費の精査や、財源などを検討し、早期に事業化できるように内部協議を進めていきます。

質問 市民からの要望も年々増加しており、また、来年度は滝の川斎苑も新しくなる。このタイミングでの設置を検討すべきだと思うが、考えを伺う。

答弁 市民のニーズが高まっていること、来年度には滝の川斎苑の工事のめどがつくことなどから、財政健全化の中ですが、所管で検討している内容を精査して、来年

3月の議会に提案し、次年度に設置できるよう進めたいと思います。

文化センターの今後の在り方について

質問 文化センターは老朽化が著しく進んでおり、市民から施設の改修を望む声も聞こえている。そうした状況を踏まえ、市はどのように考えているのか伺う。

答弁 施設設備等の状況、安全面などから総合的に判断すると大規模改修をしない限り、今後の施設運営は困難だと考えています。

質問 大規模改修をするのか、休止施設とするのか、あるいはホール機能を備えた新たな施設にするのか、今後の在り方を早急に検討すべきと思うが、見解を伺う。

答弁 文化連盟などから老朽化対策について要望をいただいており、ホール機能を備えた施設の必要性も含め「どうあるべきか」を早期に判断したいと考えています。内部の議論と併せ、市民の皆さんの声も判断材料とするため、市民会議などの設置を検討し、それらの意見を踏まえ、今後の方針を決定していきたいと考えています。